

一般国道357号湾岸千葉地区改良 (蘇我地区)の新規事業化について

一般国道357号は、東京湾に接する主要都市を結び、国際空港や国際戦略港湾などの物流拠点、オフィス・レジヤ施設へのアクセス等、産業・生活両面において不可欠な幹線道路です。

千葉市においては、「幕張新都心」「千葉都心」「蘇我副都心」の三都心を結ぶ重要な道路であり、沿道には貨物取扱量全国2位の国際拠点港湾「千葉港」が位置し、鉄鋼・電力等の製造業やコンテナターミナルが立地しています。また、千葉市と隣接する市原市は製造品出荷額全国2位であり、日本最大のエネルギー・素材産業の集積地である京葉臨海コンビナートが立地し、これら企業の多くが国道357号を利用して、経済活動を行っています。

そこで、交通円滑化を目的として平成15年度に事業化された一般国道357号湾岸千葉地区改良(L=5.6km)は、平成27年12月に千葉市役所前の地下立体化と東京方面の6車線化が供用され、主要交差点で発生していた渋滞が緩和し、旅行速度が1.5倍に上昇(20→30 km/h)しました。また、供用後はポートアリーナ前交差点から千葉県救急医療センターへの救急搬送時間が約3割短縮(24→18分)され、救急救命活動にも大きく貢献する効果が見られました。

しかしながら、供用した湾岸千葉地区改良の延伸部である蘇我地区(L=6.2km)では、主要渋滞箇所が連担し、その平均旅行速度は供用した区間や市原地区と比べ著しく低くボトルネックとなっており、輸送に時間を要することから生産性が低下し、企業の経済活動の妨げとなっています。

本市では、地方創生の実現や地域経済の好循環のため、臨海地域において企業の設備投資の支援を積極的に進めているところであります。

つきましては、平成27年度に供用した湾岸千葉地区改良の整備効果と一体となって輸送時間・通勤時間の短縮や定時性・速達性が確保され生産性が向上するなどのストック効果が期待できることから、一般国道357号湾岸千葉地区改良(蘇我地区)の新規事業化を要望いたします。

平成28年11月24日

千葉市長 熊谷 俊人

一般国道357号湾岸千葉地区改良事業（蘇我地区）の新規事業化について



新規要望箇所(蘇我地区)

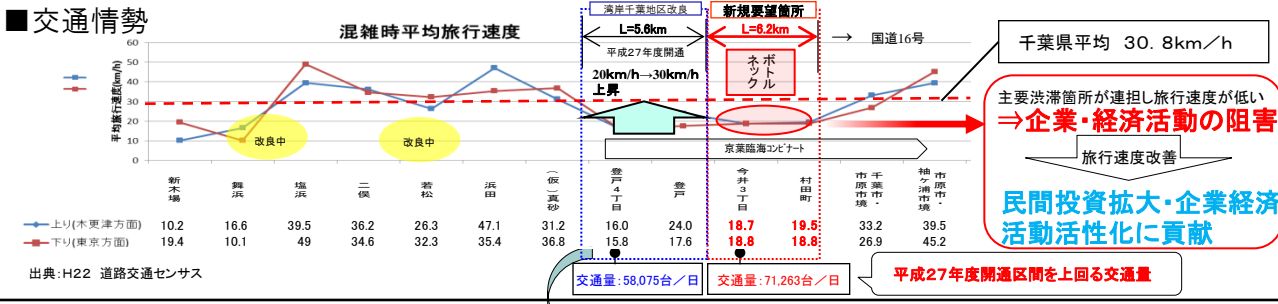
■渋滞状況



蘇我陸橋南付近(木更津方面)

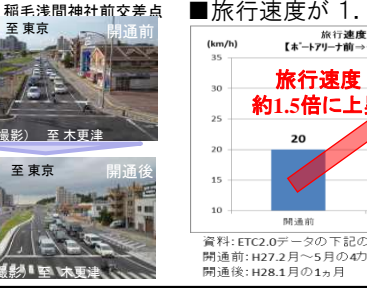
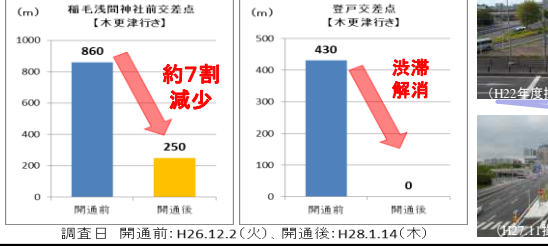


蘇我陸橋南付近(東京方面)



湾岸千葉地区改良の整備効果

■主要交差点で発生していた渋滞が緩和



■旅行速度が1.5倍に上昇



■京葉臨海コンビナートの主な企業



■救急救命活動に貢献 - ポートアリーナ前交差点から県救急医療センターへの搬送時間が約3割短縮(24分→18分)